



ロジカルシンキング・論理的思考・批判的思考の教科書②  
正しさの支え方 文中スライド集

※同一パート内で複数回掲載したスライドは、初回の位置のみ  
掲載しています

2026/1/28

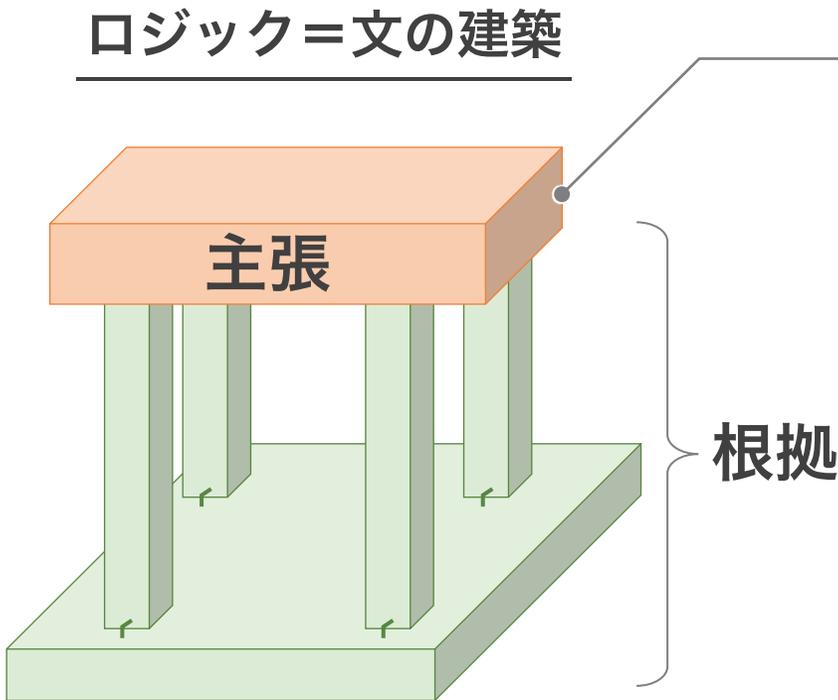
Liffel



はじめに

# ロジック（主張と根拠）のイメージ | 合理性とは

- 合理性とは、根拠が主張の正しさを支えきれているかを検討することである



- **主張は一文しかない**

- 特性上、主張を複数の文で述べることはできない
- 合理的な意思決定のゴールは、これを万人に正しいものにする（＝屋根を安定させる）

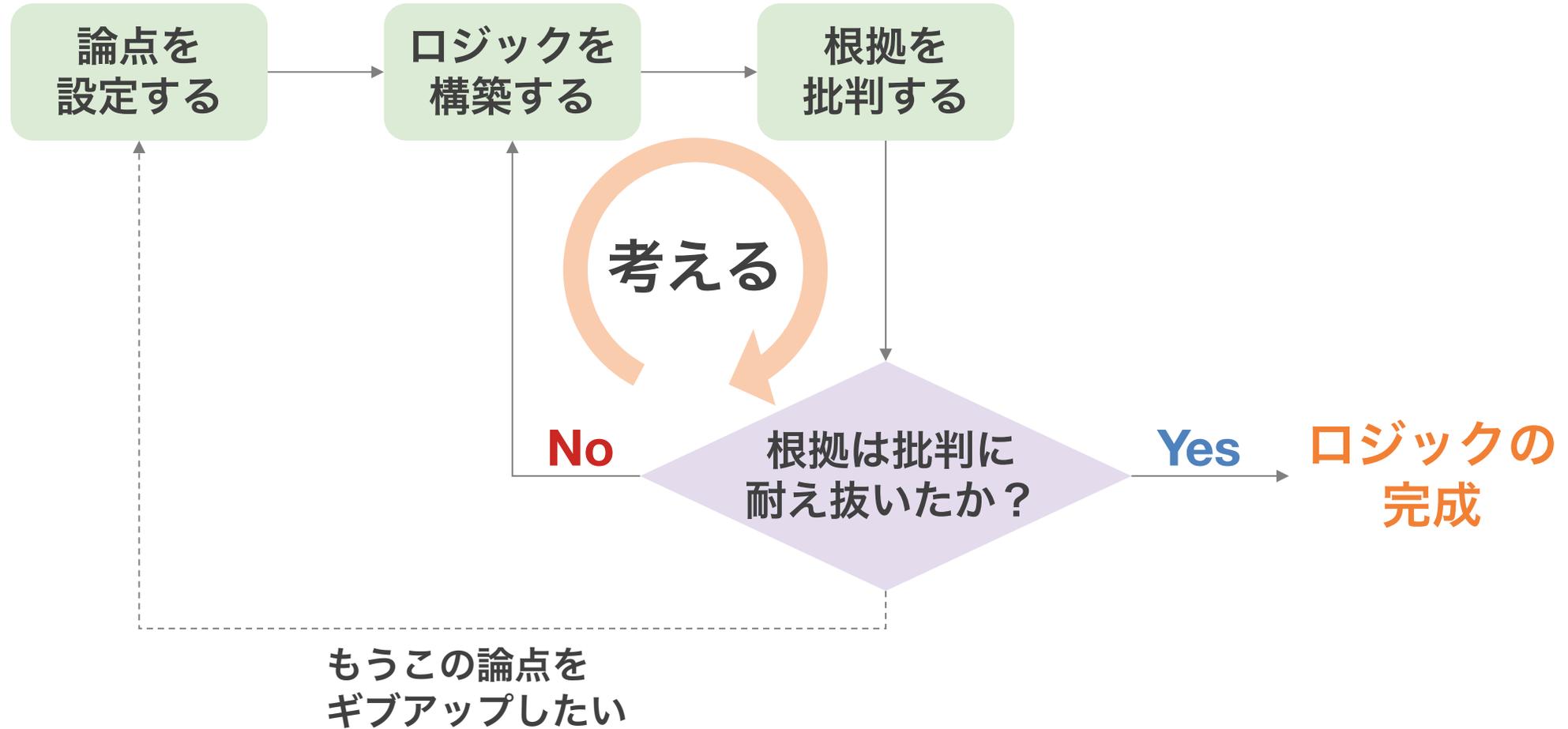
- **根拠は複数の文で構成される**

- 主張の正しさを支えるためには、多くの言説が必要になる
- ロジックの大半は根拠だと考えて問題ない

- **根拠が主張を支えられるかで「合理的である」かが決まる**

- 屋根が誰から見ても安定しているなら、その主張は合理的である

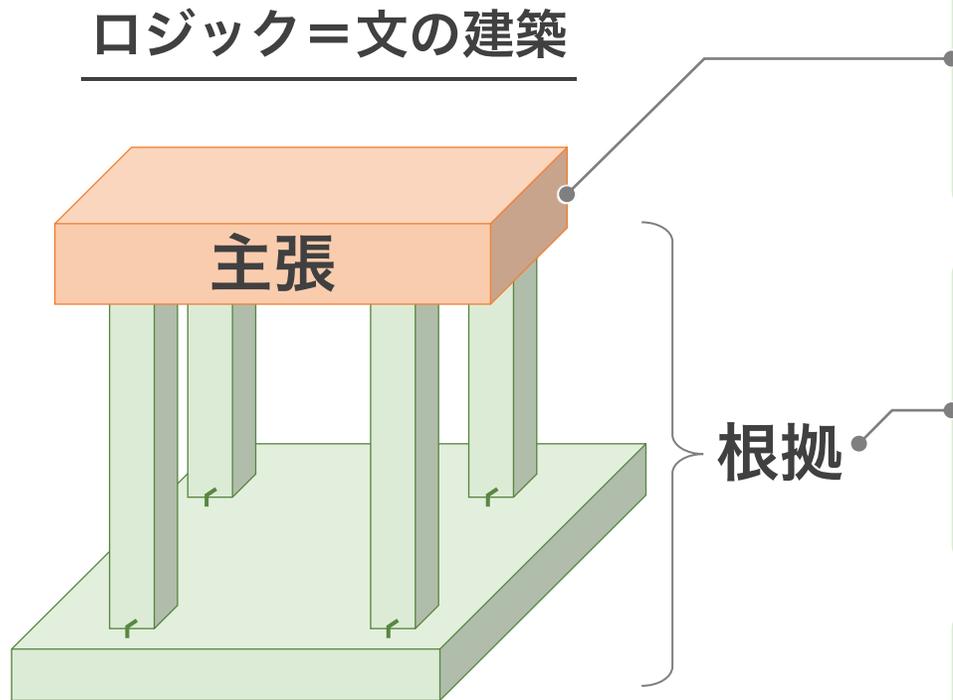
# 根拠の強度テストをするとは | 合理的に（批判的に）考えるとは



# Part I 根拠とは | 根拠の構造

# ロジック（主張と根拠）のイメージ | 合理性とは

- 合理性とは、根拠が主張の正しさを支えきれているかを検討することである



- **主張は一文しかない**

- 特性上、主張を複数の文で述べることはできない
- 合理的な意思決定のゴールは、これを万人に正しいものにする（＝屋根を安定させる）

- **根拠は複数の文で構成される**

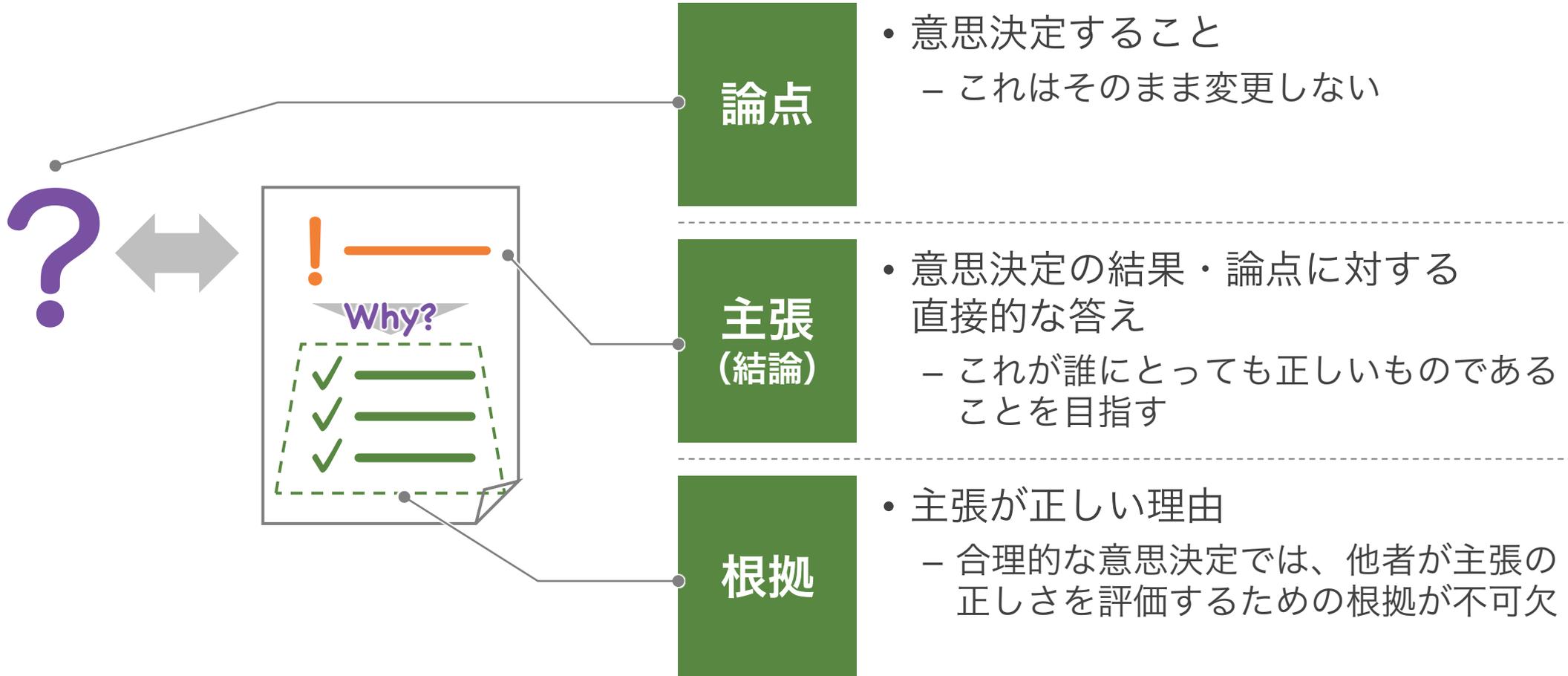
- 主張の正しさを支えるためには、多くの言説が必要になる
- ロジックの大半は根拠だと考えて問題ない

- **根拠が主張を支えられるかで「合理的である」かが決まる**

- 屋根が誰から見ても安定しているなら、その主張は合理的である

# 合理的な意思決定の3要素

- 合理的な意思決定では、論点に対するロジック（主張と根拠）を構築する
  - 意思決定全般のケースと異なり、根拠がないことは認められない



ロジック

# 意思決定のプロセス | 意思決定と合理性



## 論点

- 何を意思決定するかを決める
  - いま、何に答えを出すべきか？

結論に至るためのあらゆる活動

- 結論を導く
  - 理由を考える、リサーチするなど

合理性が問われる部分

- 合理性とは、**結論を導くプロセス**に問われることである
  - どうやって結論に至ったのか？



## 結論

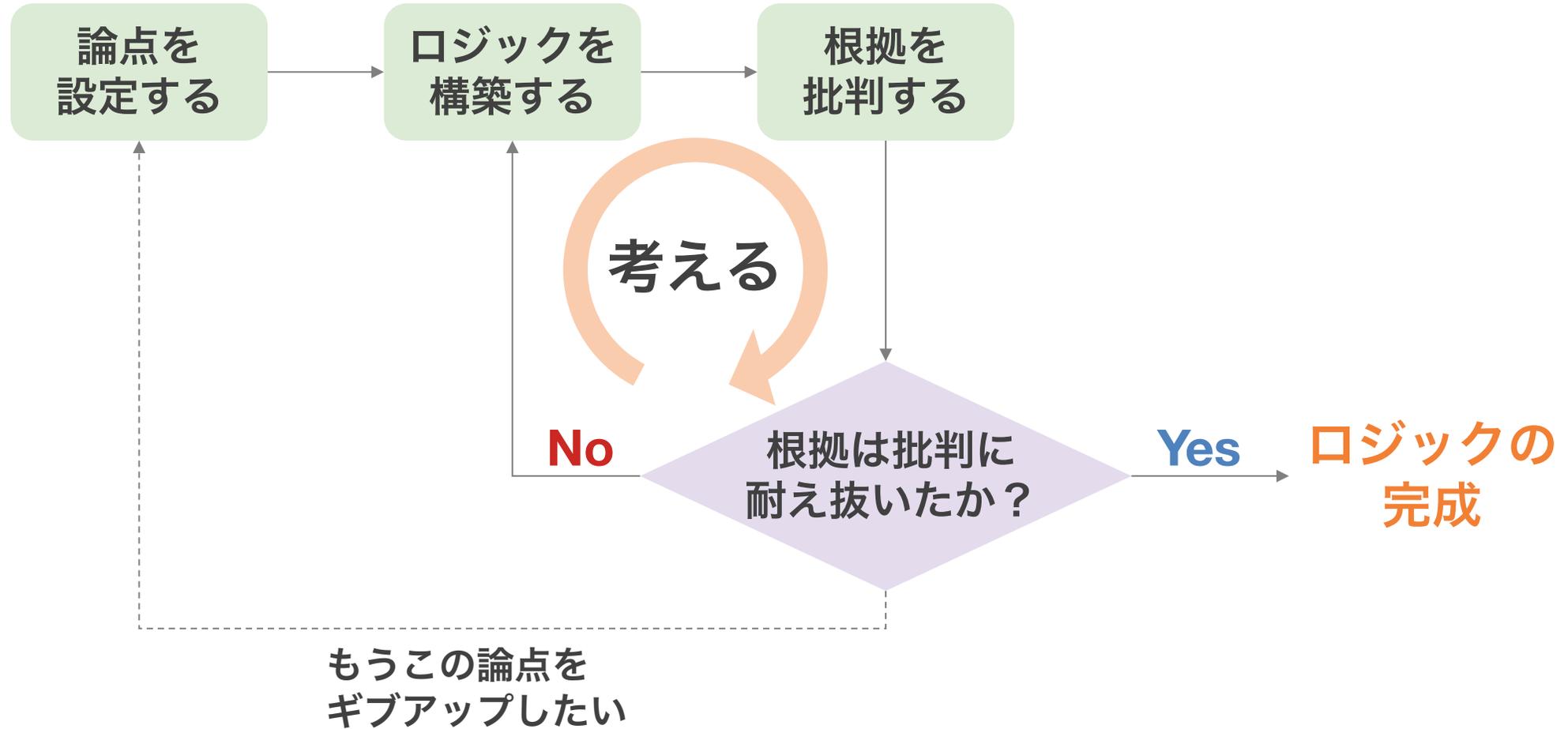
- 最終的な結論を確定させる
  - 論点に対する答えは何か？



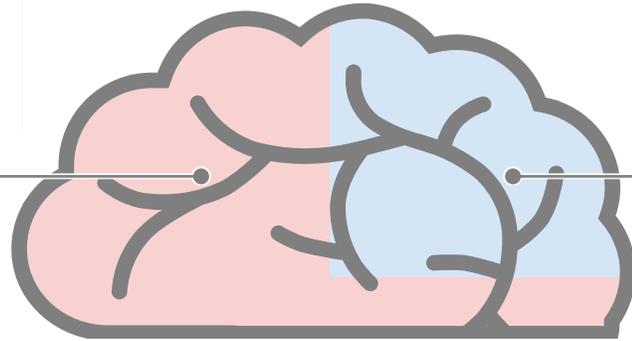
- 結論に基づいて何かをする
  - 結論を実行に移す、結論を発表する、など

- 最終的な結論（決断）が正しかったかは、合理性と直接的な関係はない
  - 非合理的に出した結論が正しいこともある

# 根拠の強度テストをするとは | 合理的に（批判的に）考えるとは



# 野性システムと理性システム



## 野性システム（システム1）

## 理性システム（システム2）

### 定義

- **いきなり結論が出る意思決定システム**
  - いわゆる「本能」

- **じっくり結論を出す意思決定システム**
  - いわゆる「理性」

### 意思決定の仕方

- **速く・コストがかからない**
  - 論点が意識される前に結論が出る
  - 理由はないか、あるとしても後付け

- **遅く・コストがかかる**
  - 論点を意識するところから始まる
  - 理由から結論を導く

### 状態

- **常にオン（自動操縦）**
  - オフにはできない

- **通常はオフ（マニュアル操縦）**
  - 使おうとしないとオンにならない

# 確認バイアスとは

- ・ 確認バイアスとは、自分が既に持っている意見・信念を肯定する情報ばかりを集めようとする傾向のこと

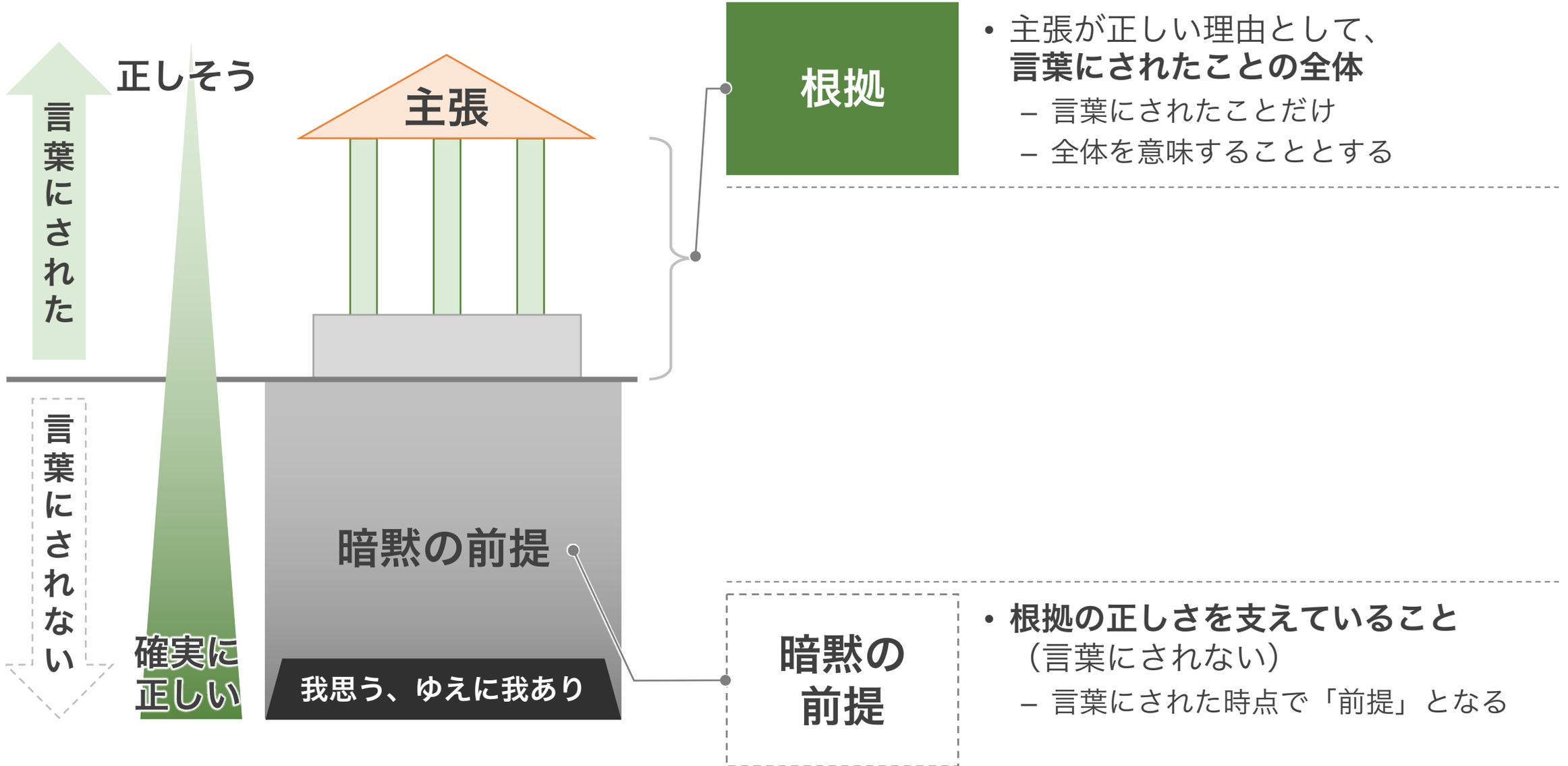


- ・ 確認バイアスによって自分の意見・信念に肯定的な情報ばかりが認知され、否定的な情報が認知しにくくなる
  - このバイアスは無意識レベルでかかってくる

合理的に考えたいなら疑う必要があるが、それは人間には難しいことである

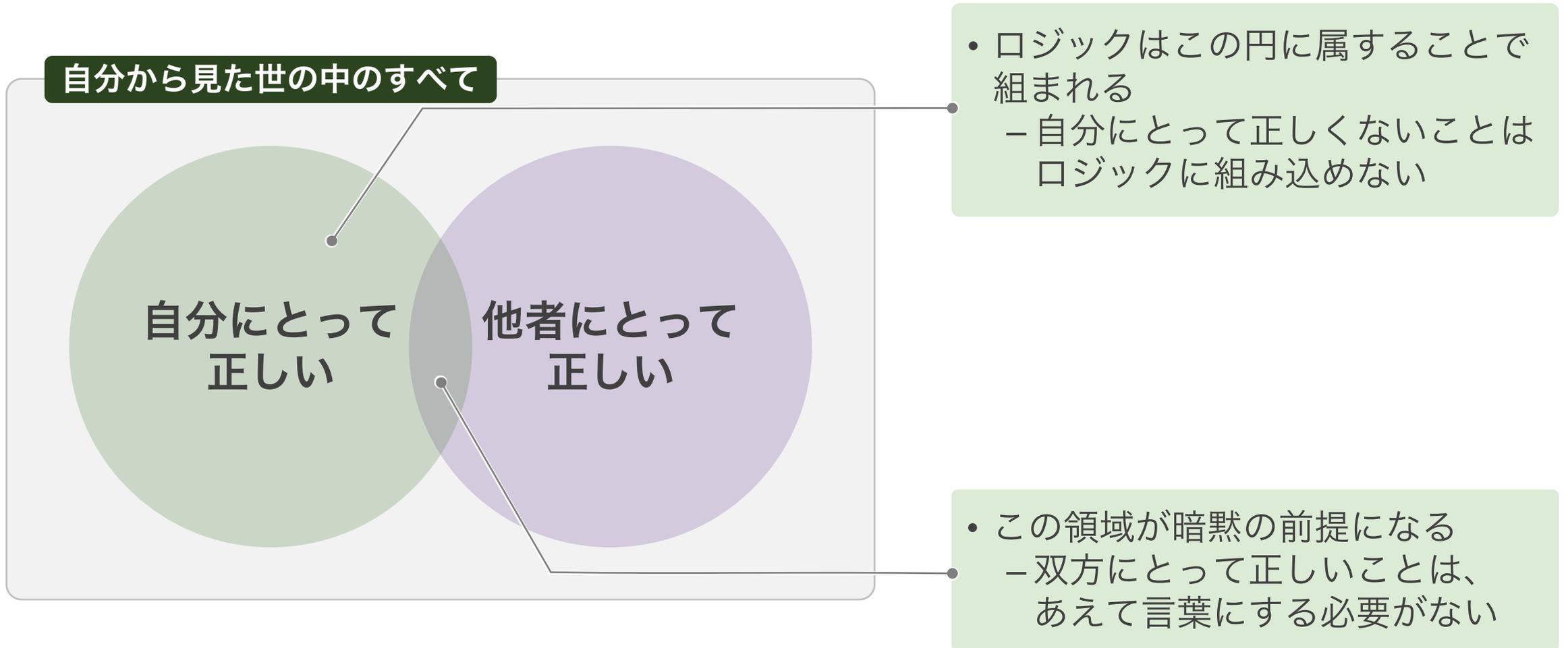


# 根拠の構造



# 言葉にされること、されないこと

- 私たちは「他者にとっての正しさの程度」で、何を言葉にするかを判断している



# 英語の「the」と暗黙の前提

- 英語の「the」は「他者にとって具体的か」を考える言葉である

世の中のすべて

自分にとって  
具体的に定まる **the** 他者にとって  
具体的に定まる

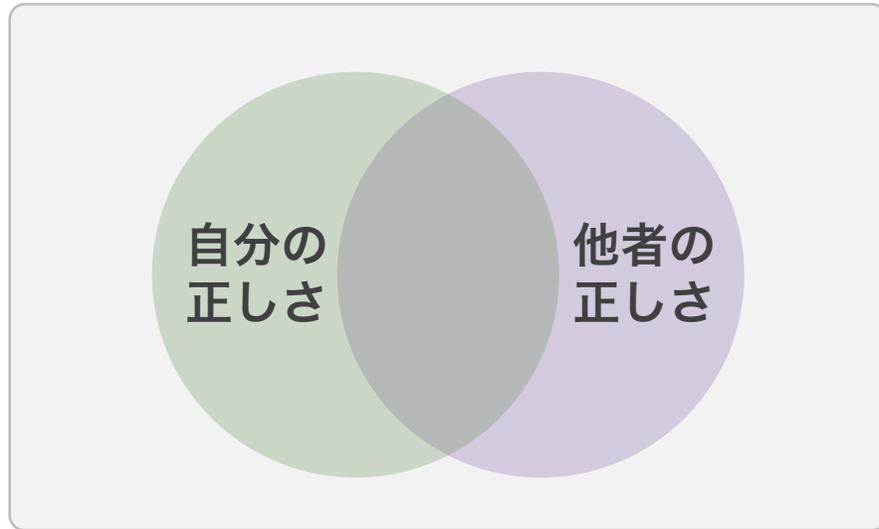
- 「the」の本質的な意味は「あなたにも具体的なものが定まるよね」というメッセージ  
– 「あの・例の」といった訳はそれをわかりやすくしたもの

- これは暗黙の前提と同じ構造をしている  
– 英語が母語の人は習慣的に他者の視点で考えている

# ハイコンテキスト・ローコンテキスト

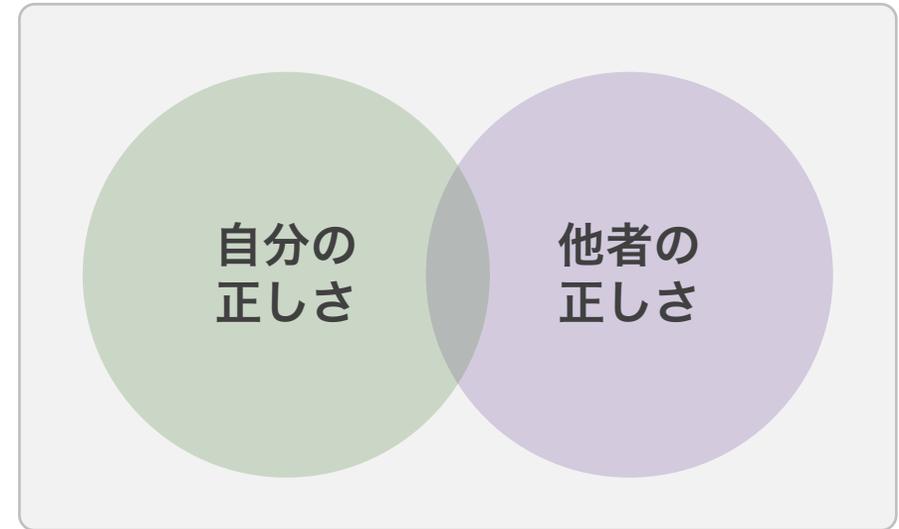
- 日本はハイコンテキスト文化である
  - ハイコンテキスト環境ではあらゆることが暗黙の前提になりやすく、合理的思考には向かない

## ハイコンテキスト



- 正しさの重なりが**大きい**
  - 「知識・常識」と見なされることが多い
  - 暗黙の前提が多く、コミュニケーションが言葉以外のものに依存しやすい

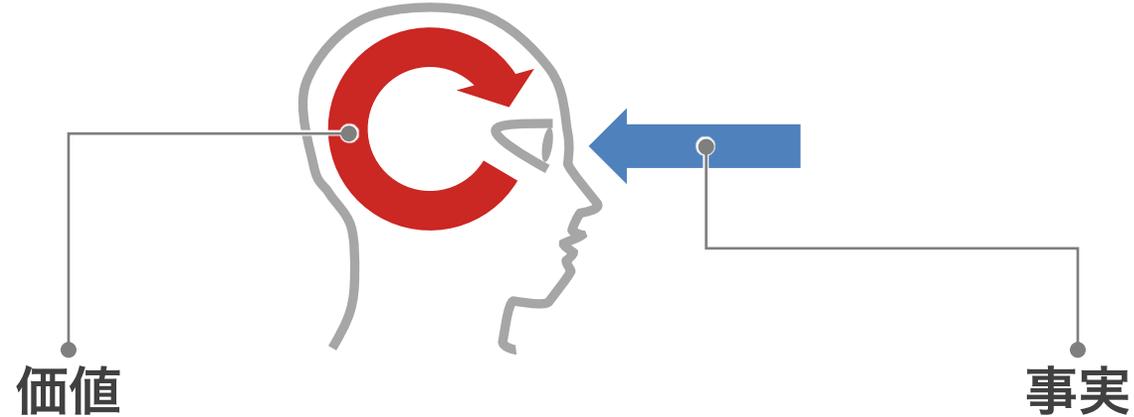
## ローコンテキスト



- 正しさの重なりが**小さい**
  - 「知識・常識」と見なされることが少ない
  - 暗黙の前提が少ないので、コミュニケーションは主に言葉で行う

# Part II 根拠の客観性①

# 価値と事実



## 定義

- 自分の内側で生じること
  - 感情（希望や欲望）や、そこから導かれる規範・ゴール・道徳
  - 「であるべき・善悪」の世界

- 自分の外側にあること
  - 観察できること（観察事実）や、そこから導かれる原理・法則
  - 「である・真偽」の世界

## 関連ワード

- 政治・宗教・文化
- 本能・遺伝子

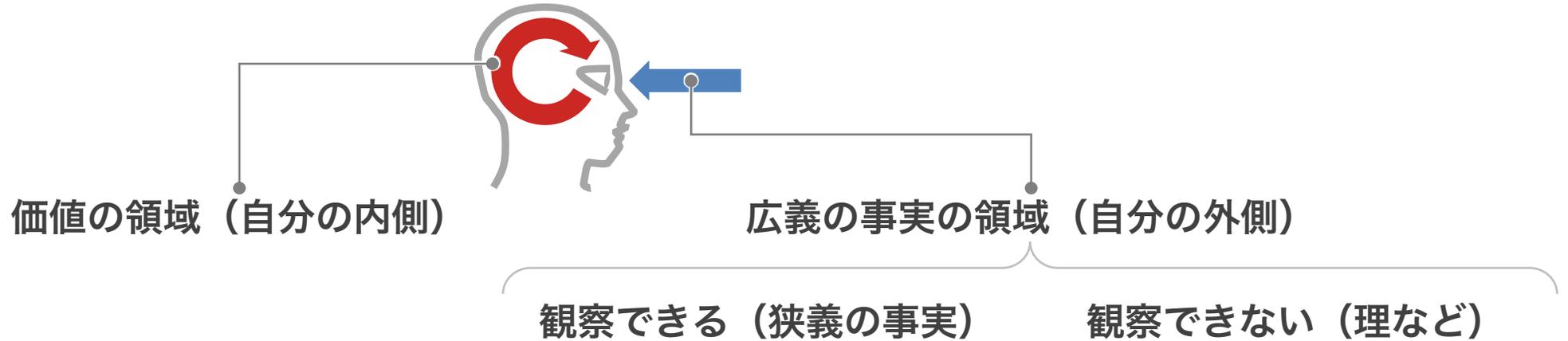
- 科学・理（ことわり）・知識
- 理性

## 絶対的な正しさを

- 期待できるか分からない
  - 専門家でも意見が分かれる

- 期待できる
  - 人間は同じように観察している

# データとは | 言説の分類



正しさが  
万全である

ない

- 万人にとって正しい価値は存在しない

データ

- 実際に観察された事実

定説 (知識)

- 万人が正しいと見なす原理・法則

正しさが  
万全ではない

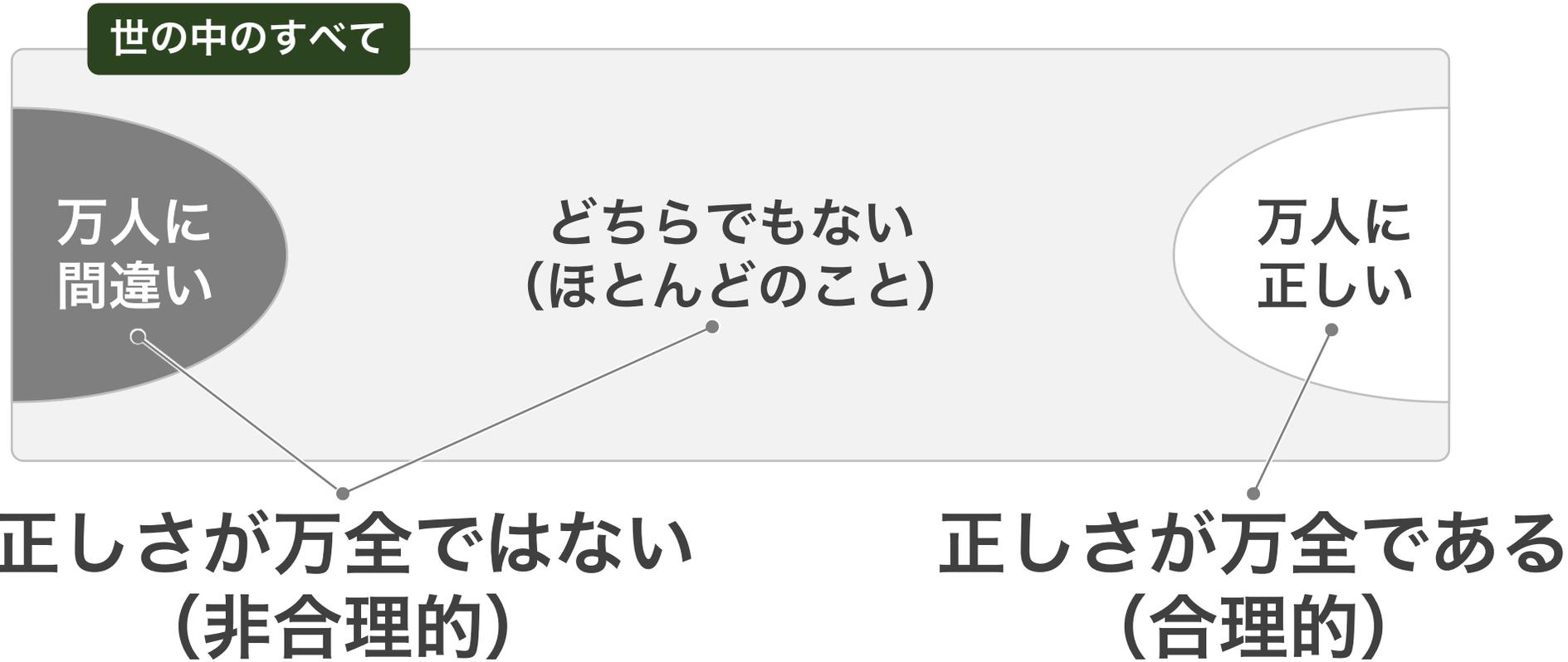
価値

- 感情・希望・信念など  
- 正しさは人それぞれ

推測と虚偽

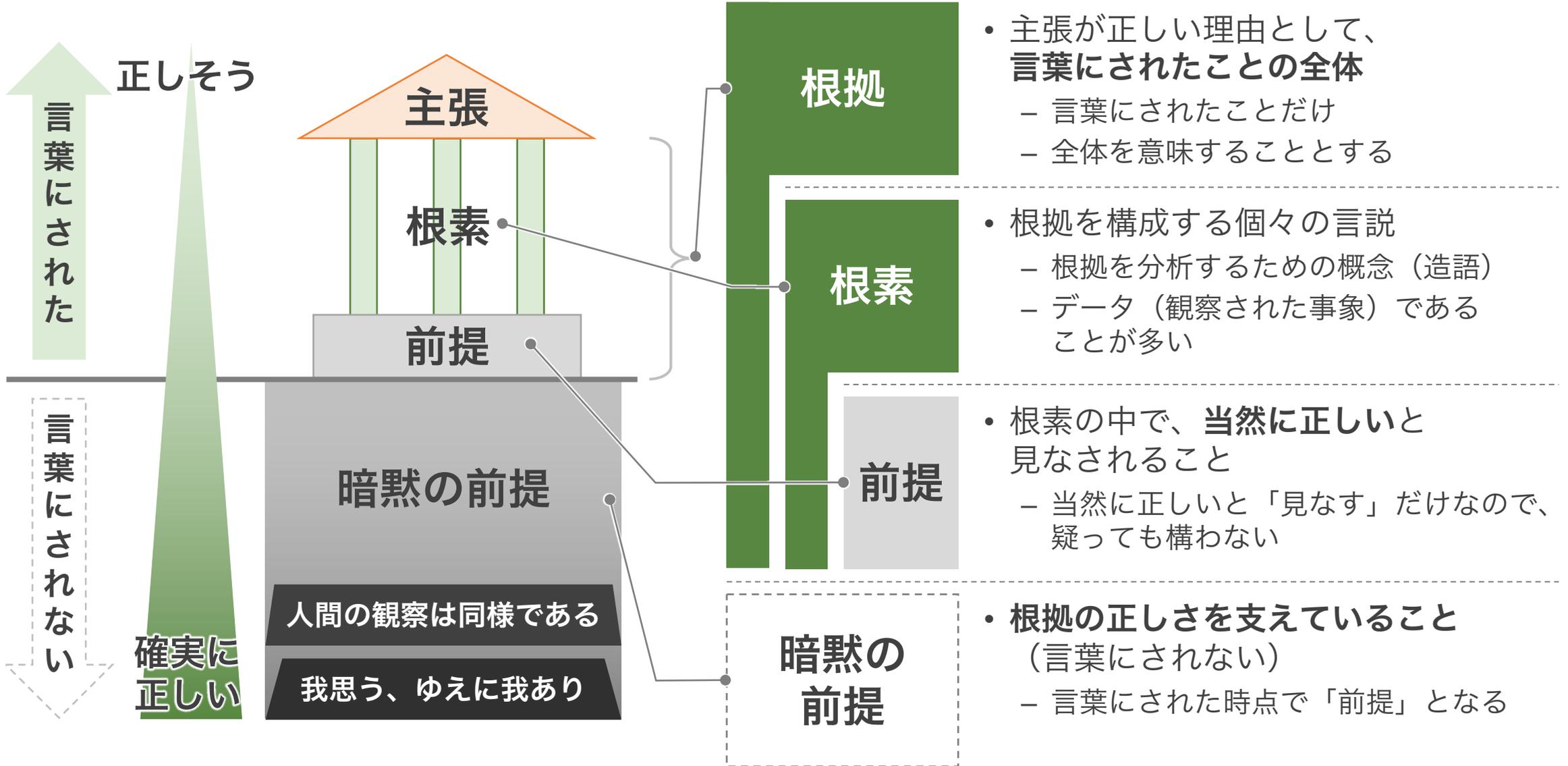
- 事実に関する、万人には正しくない言説

# 正しさが「万全である」とは | 非合理的とは



- 本書における「非合理的」は、あくまでも「not 合理的」という意味
  - 数学的に表現すると、「合理的」の補集合
- 「非合理的 = 確実な間違い」ではない
  - 「非合理的」の中には、「確実に正しいとも間違いとも言い切れないこと」が含まれる

# 根拠の構造



# 推測と虚偽 | 事実の領域における、正しさが万全でないことの全体像

## 推測

- 正しさが万全ではないことが**他者にも明らか**であること
  - 語尾に「だろう」などの言葉がついているか（簡易的な見分け方）

## 嘘

### • 意図的な虚偽

- 意図の有無が問題なので、**事実を隠すこと・わかりにくくすることも嘘**である（決め事）

## 虚偽

## ミス

- 正しさが万全でないことを**万全かのように扱うこと**
  - **根拠に対してのみ使う言葉**とする（決め事）

### • 意図せず事実を歪めてしまうこと

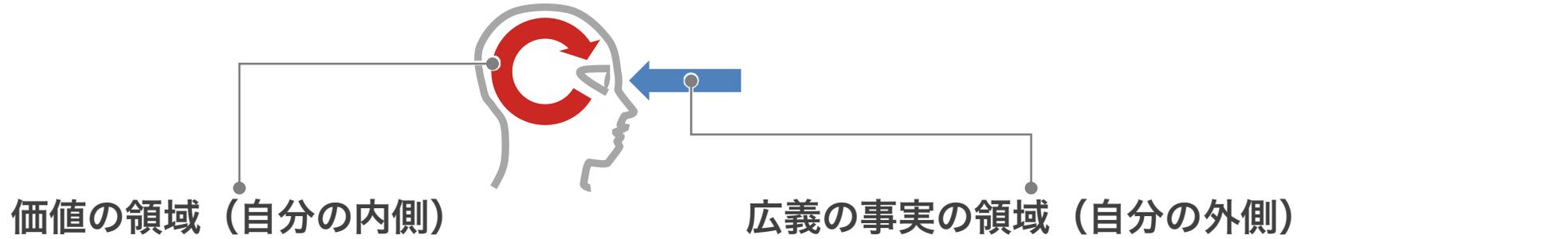
- 本人が気づいたら修正する類の虚偽
- 入力ミス・計算ミスなど

## エセ知識 (その他)

### • 嘘でもミスでもない虚偽

- 本人が正しいと思い込んでいるだけのこと
- 間違った知識・思い込み・妄想など

# 客観性の誤型



観察できる (狭義の事実)

観察できない (理など)

正しさが  
万全である

ない

- 万人にとって正しい価値は存在しない

データ

- 実際に観察された事実

定説 (知識)

- 万人が正しいと見なす原理・法則

正しさが  
万全ではない

価値  
① 価値論法

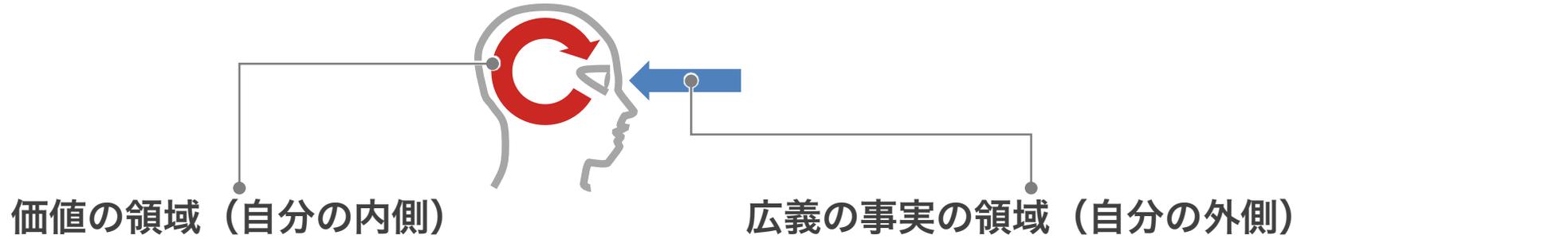
- 感情・希望・信念など
- 正しさは人それぞれ

推測と虚偽  
② 推測論法

- 事実に関する、万人には正しくない言説

③ 虚偽

# 客観性の誤型



観察できる (狭義の事実)

観察できない (理など)

正しさが  
万全である

ない

- 万人にとって正しい価値は存在しない

データ

- 実際に観察された事実

定説 (知識)

- 万人が正しいと見なす原理・法則

正しさが  
万全ではない

価値  
① 価値論法

• 感情・希望・信念など  
- 正しさは人それぞれ

推測と虚偽  
② 推測論法

- 事実に関する、万人には正しくない言説

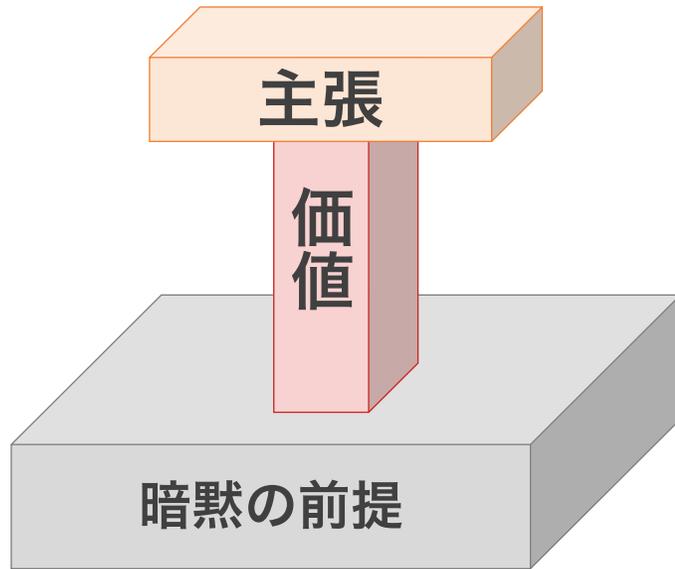
③ 虚偽

# 価値論法とは

---

## 価値論法

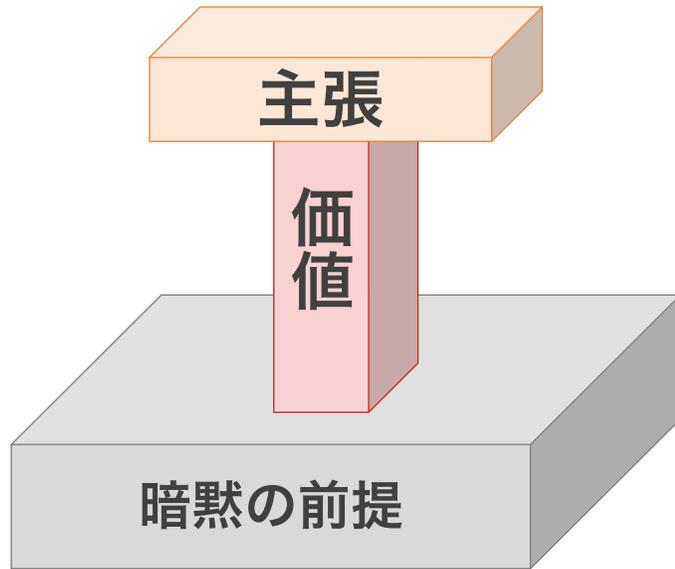
---



- 価値を前面に押し出しても、合意形成は期待できない
  - 万全に正しい価値は存在しない

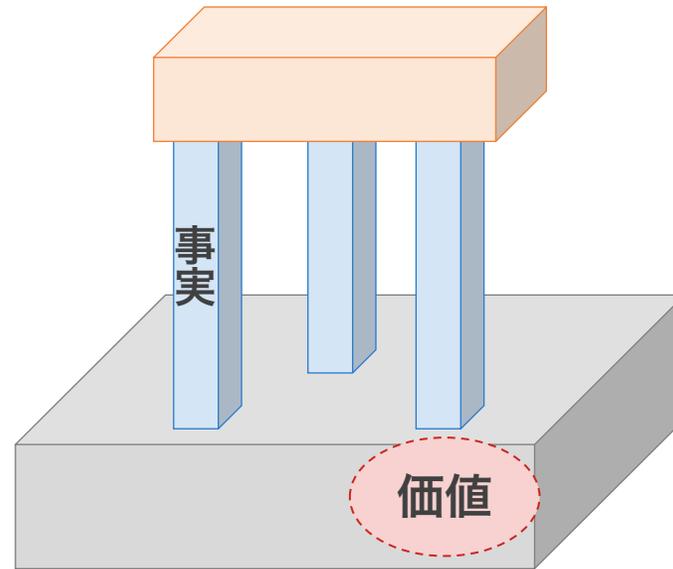
# 価値論法とは

## 価値論法

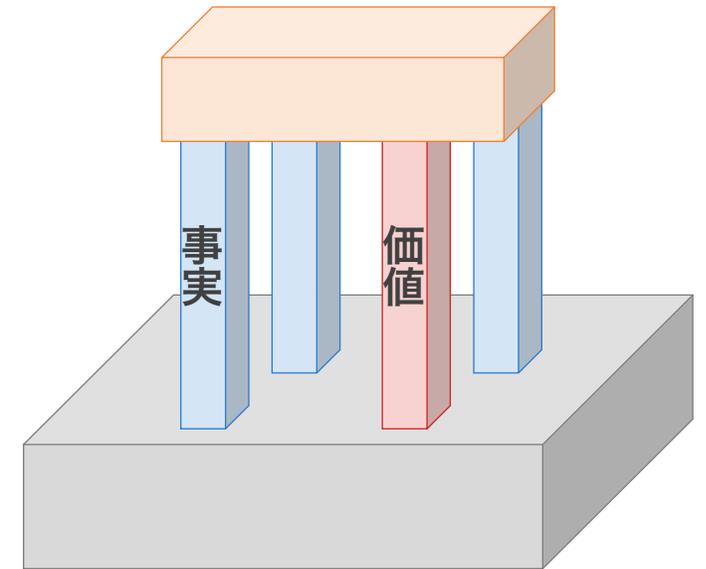


- 価値を前面に押し出しても、合意形成は期待できない
  - 万全に正しい価値は存在しない

## 他者と正しさが揃いやすいロジック



- まずは事実ベースでロジックを組む
  - 事実なら正しさが揃う
  - 価値は暗黙の前提とする



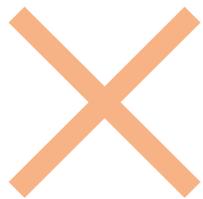
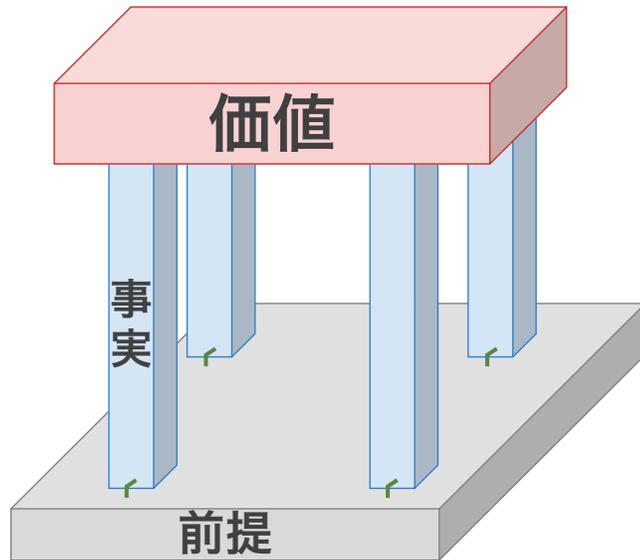
- 価値をすり合わせる必要があるなら、当然そうする
  - 価値のズレを感じるときや、完全に合意したいとき

# 論点の分類

|    | 問うこと   | 結論に議論の余地があるか（論点の呼び名）   |          |
|----|--|--|----------|
|    |  | ある   | ない       |
| 行動 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 何をするか？<ul style="list-style-type: none"><li>– 原則として、このタイプの問いが論点になる</li></ul></li></ul> | <b>行動論点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 例：毎日ランニングをするべきか？</li></ul> | 問いが存在しない |
| 価値 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ どうあるべきか？<ul style="list-style-type: none"><li>– 答えの絶対的な正しさを期待できない</li></ul></li></ul>  | <b>価値論点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 例：お金と健康はどちらが大事か？</li></ul> |          |
| 事実 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ どうであるか？<ul style="list-style-type: none"><li>– 答えの絶対的な正しさを期待できる</li></ul></li></ul>    | <b>事実論点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 例：ランニングは健康にいいか？</li></ul>  |          |

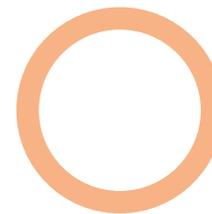
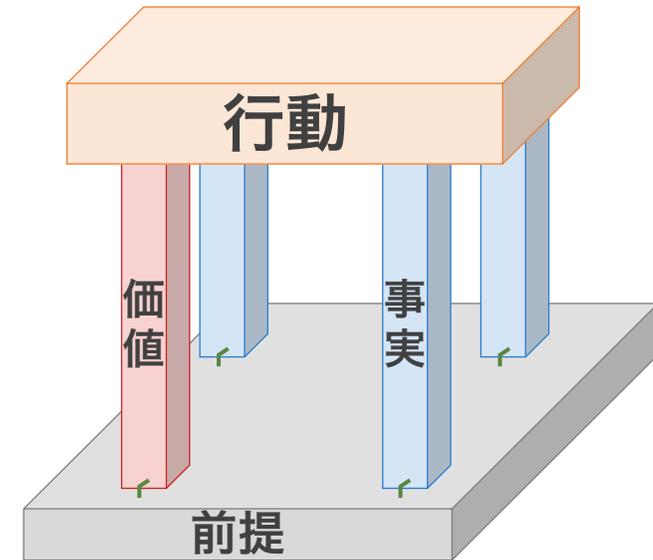
# ヒュームの法則（である-べき問題）を正しく理解する

## 事実から価値を導く



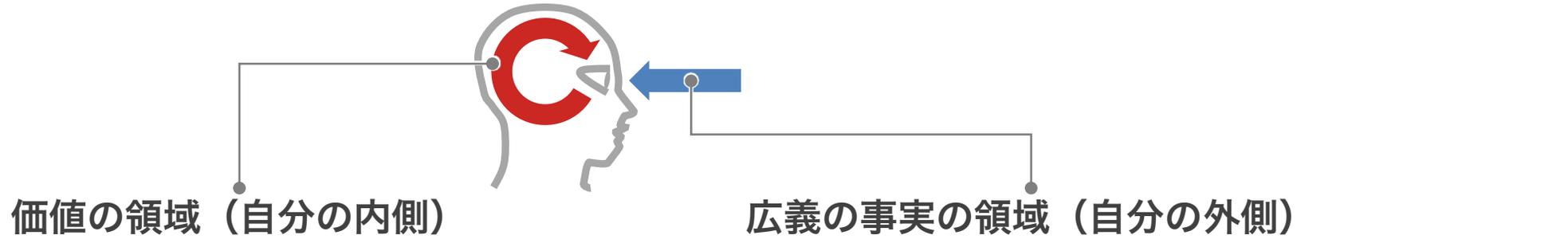
- このように価値を導いても、その正しさは保証されない
  - 価値には正しさを決める方法が存在しない

## 価値と事実から行動を導く



- 行動を導く根拠に価値があるのは問題ない
  - 価値を絡ませないで行動を決めることは不可能

# 客観性の誤型



観察できる (狭義の事実)

観察できない (理など)

正しさが  
万全である

ない

- 万人にとって正しい価値は存在しない

データ

- 実際に観察された事実

定説 (知識)

- 万人が正しいと見なす原理・法則

正しさが  
万全ではない

価値  
① 価値論法

- 感情・希望・信念など
- 正しさは人それぞれ

推測と虚偽  
② 推測論法

- 事実に関する、万人には正しくない言説

③ 虚偽

# 推測論法のタイプとその対策

## ① 検証不可能タイプ

## ② 検証可能タイプ

### 推測の 検証 (定義)

- 原理的・物理的に不可能
  - データの集めようがない、など

- 可能
  - 検証にかかるリソースは問わない

### 具体例

- オカルト
- 反事実論法
  - 反事実：現実に起きたことの反対

- 大半の推測論法
  - 陰謀論などもこちら

### 対策

#### 原則①

- 主張を偽と見なすところから始める（方法的懐疑）
  - 正しさが万全でない根拠は不当と見なす

#### 原則②

- できるだけ決断しない（自由の条件）
  - 推測の正しさが証明されるかもしれない以上、不要なリスクは取らない

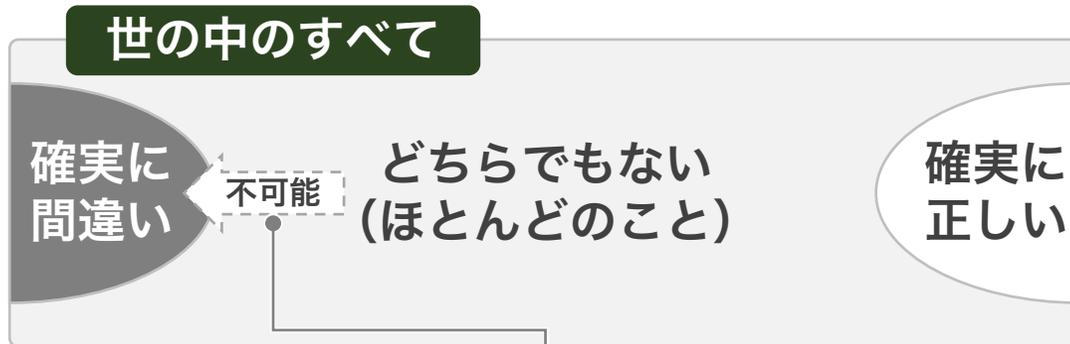
主張を偽と見なす

推測の確からしさがデータによって示されるなら、主張を真と認める

# 方法的懐疑とは

- 方法的懐疑とは、少しでも正しさに疑念があることは「間違い」だと考えること
  - この考え方のもとでは、「確実に間違っている」とは言い切れないは「間違っている」と考える

## 実際の世の中



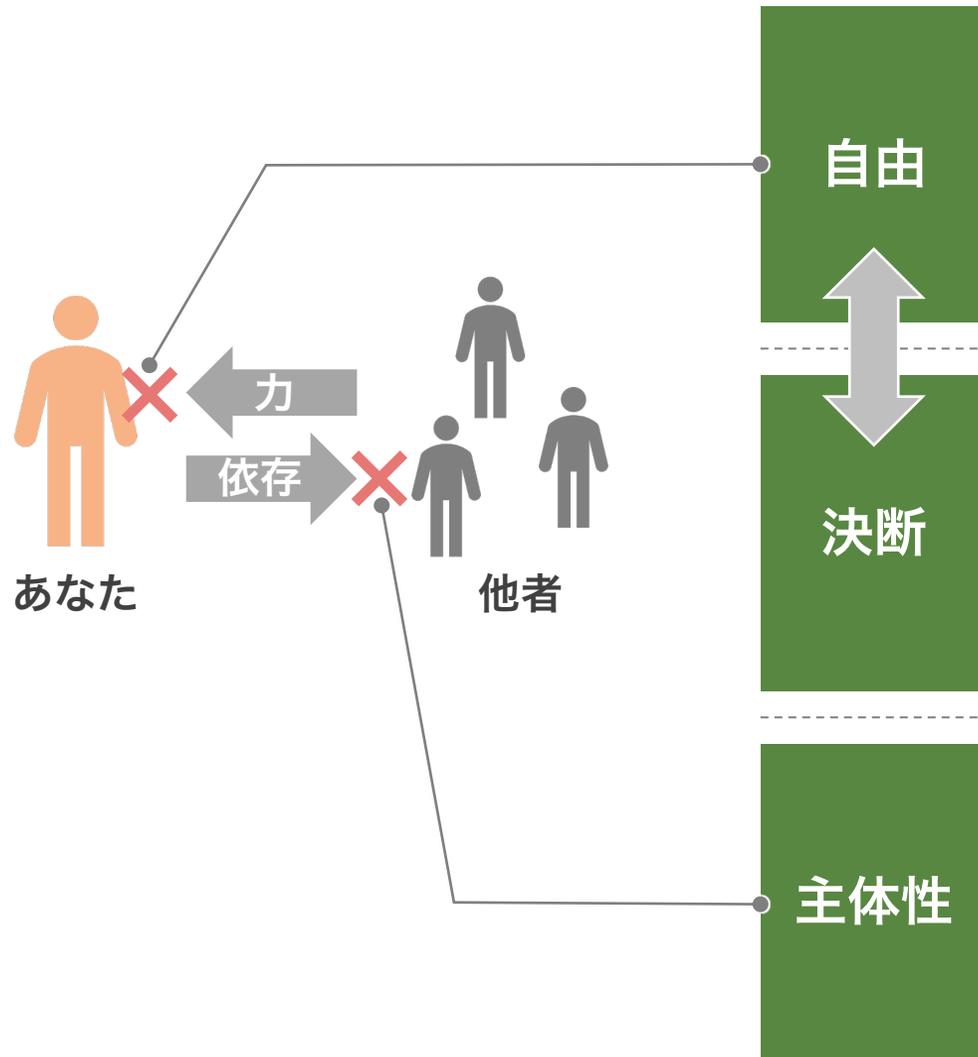
- 何かを「確実に間違っている」と言い切る方法は存在しない
  - 言い換えると、ほとんどのことは正しいかもしれない
- これでは正しさが積み上がらない

## 方法的懐疑による考え方



- 一方、「(ほぼ) 確実に正しい」と言い切る方法は分かっている
  - これが「合理性」と呼ばれるもの
- そこで、確実に正しそうなこと以外はすべて間違いだと考える

# 主張の3条件



- 十分なコストを投入するまで決断しなくていい状態・環境である

- 決断：結論を確定し、意思決定を終えること
- **主張が柔軟である**ということ

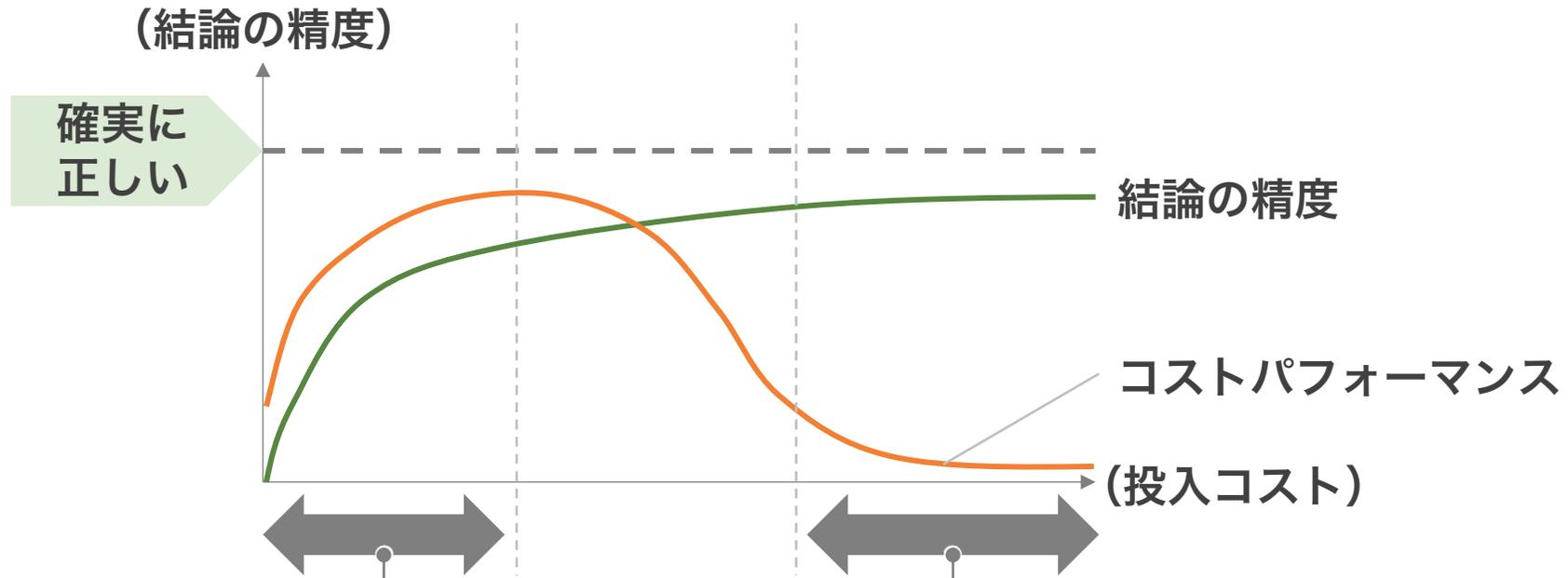
- 十分なコストを投入したら決断するか、意思決定そのものを中止する（合理性の条件ではない）

- コストを投入し続けても結論の精度は高まらず、意思決定のコストパフォーマンスが悪化する

- 自分の頭で考え、その主張に責任を負う（事実に関して権威主義にならない）

- 権威主義：観察されたことではなく、他者の主張を無条件に信用する姿勢

# 意思決定のコストパフォーマンス (イメージ)



- 十分なコストを投入する前に決断するのは**非合理的**
  - 効率よく結論の精度を上げる可能性を放棄している

- 十分なコストを投入しても決断しないのは**非効率**
  - コストを投入し続けても、結論の精度はそれに見合うほど向上しない

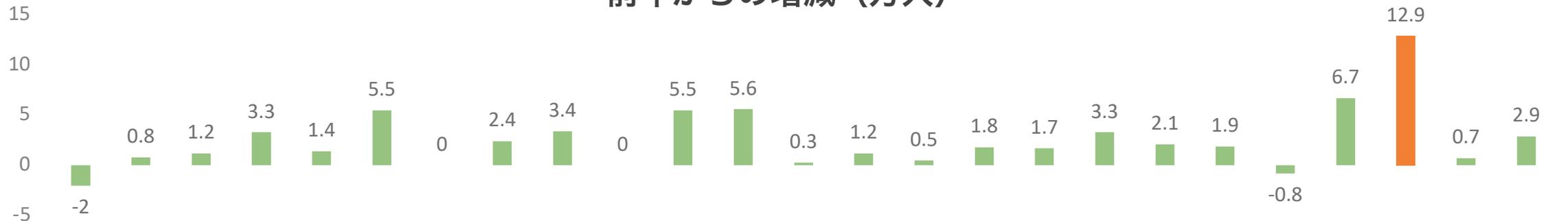
# 日本人の死者数の推移

- 日本人の死者数は、2022年にそれまでの傾向から外れた激増を見せた
  - 2022年前後に、日本人の健康に悪影響を与えるイベントが起きたと考えられる

## 日本人の死者数（万人）



## 前年からの増減（万人）



# Part III 虚偽（根拠の客観性②）

# 客観性の誤型



# 推測と虚偽 | 事実の領域における、正しさが万全でないことの全体像

## 推測

- 正しさが万全ではないことが**他者にも明らか**であること
  - 語尾に「だろう」などの言葉がついているか（簡易的な見分け方）

## 嘘

### • 意図的な虚偽

- 意図の有無が問題なので、**事実を隠すこと・わかりにくくすることも嘘**である（決め事）

## 虚偽

## ミス

- 正しさが万全でないことを**万全かのように扱うこと**
  - **根拠に対してのみ使う言葉**とする（決め事）

### • 意図せず事実を歪めてしまうこと

- 本人が気づいたら修正する類の虚偽
- 入力ミス・計算ミスなど

## エセ知識 (その他)

### • 嘘でもミスでもない虚偽

- 本人が正しいと思い込んでいるだけのこと
- 間違った知識・思い込み・妄想など

# 推測と虚偽 | 事実の領域における、正しさが万全でないことの全体像

## 推測

- 正しさが万全ではないことが**他者にも明らか**であること
  - 語尾に「だろう」などの言葉がついているか（簡易的な見分け方）

## 嘘

### • 意図的な虚偽

- 意図の有無が問題なので、**事実を隠すこと**・**わかりにくくすることも嘘**である（決め事）

## ミス

- 正しさが万全でないことを**万全かのように扱うこと**
  - **根拠に対してのみ使う**言葉とする（決め事）

### • 意図せず事実を歪めてしまうこと

- 本人が気づいたら修正する類の虚偽
- 入力ミス・計算ミスなど

## エセ知識 (その他)

- **嘘でもミスでもない虚偽**  
**これ以降は考えない**  
**(虚偽とは、嘘かミスだとする)**
  - 本人が正しいと思い込んでいるだけのこと
  - 間違った知識 思い込み・妄想など

# 虚偽を発見できるか | 誤型の見分け方

- 原則として、虚偽を発見することは不可能である
  - 虚偽を見分けるための基準を用意できない

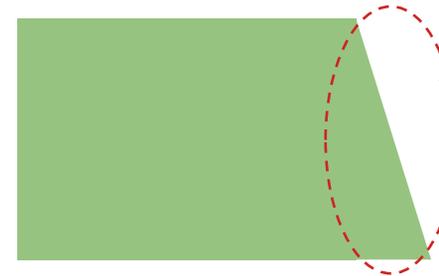
## 判断基準

## 実際のロジック

虚偽以外の  
誤型

何を正しい/  
誤りと見なすか

突き合わせ



- ここがおかしい
  - 枠とのズレで判断できる

虚偽

判断基準が  
用意できない



- 何も分からない
  - 枠がない

# 意思決定のプロセス | 意思決定と合理性



## 論点

- 何を意思決定するかを決める
  - いま、何に答えを出すべきか？

結論に至るためのあらゆる活動

- 結論を導く
  - 理由を考える、リサーチするなど

合理性が問われる部分

- 合理性とは、**結論を導くプロセス**に問われることである
  - どうやって結論に至ったのか？



## 結論

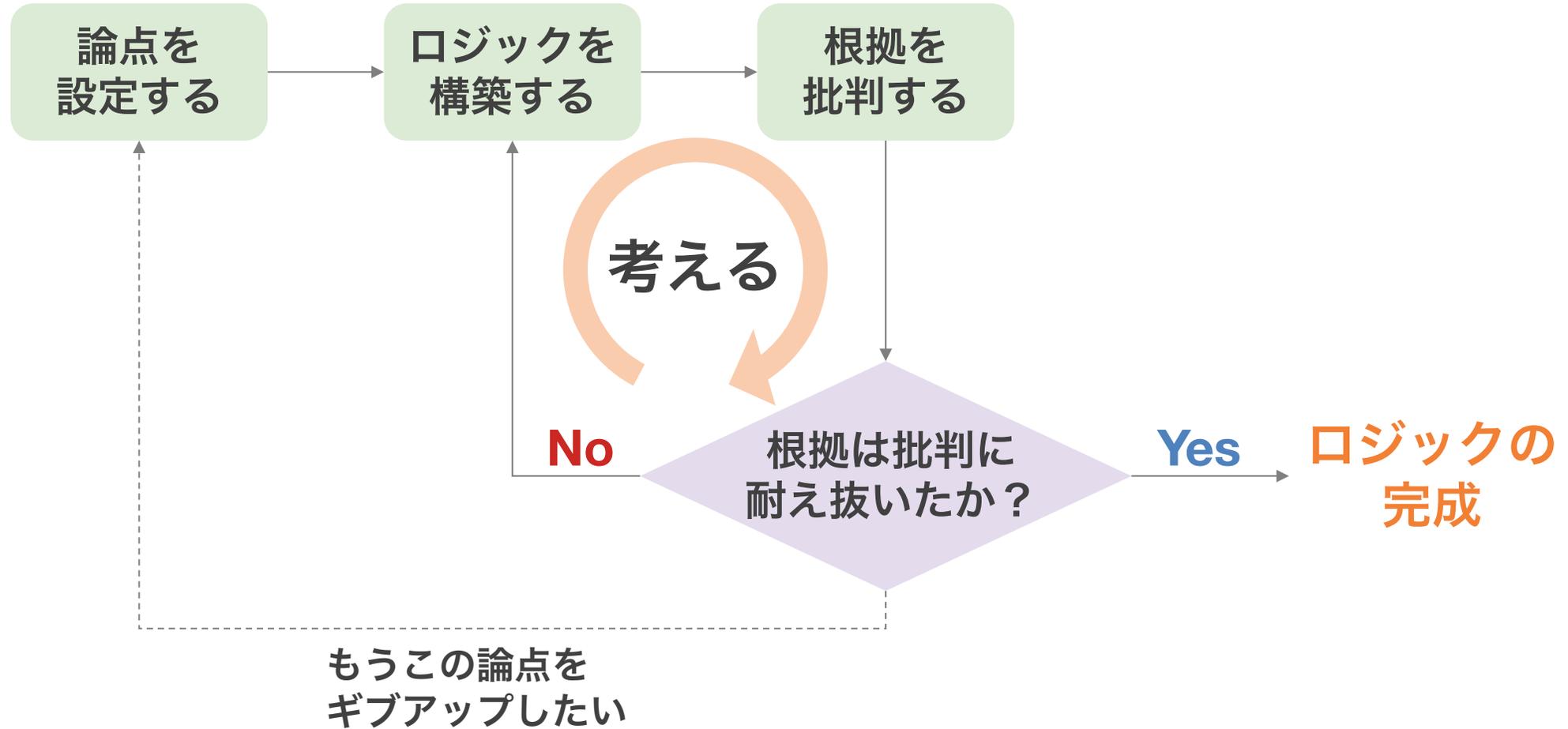
- 最終的な結論を確定させる
  - 論点に対する答えは何か？



- 結論に基づいて何かをする
  - 結論を実行に移す、結論を発表する、など

- 最終的な結論（決断）が正しかったかは、合理性と直接的な関係はない
  - 非合理的に出した結論が正しいこともある

# 根拠の強度テストをするとは | 合理的に（批判的に）考えるとは



# コミュニティの種類

## 非合理的コミュニティ (感情コミュニティ)



## 合理的コミュニティ

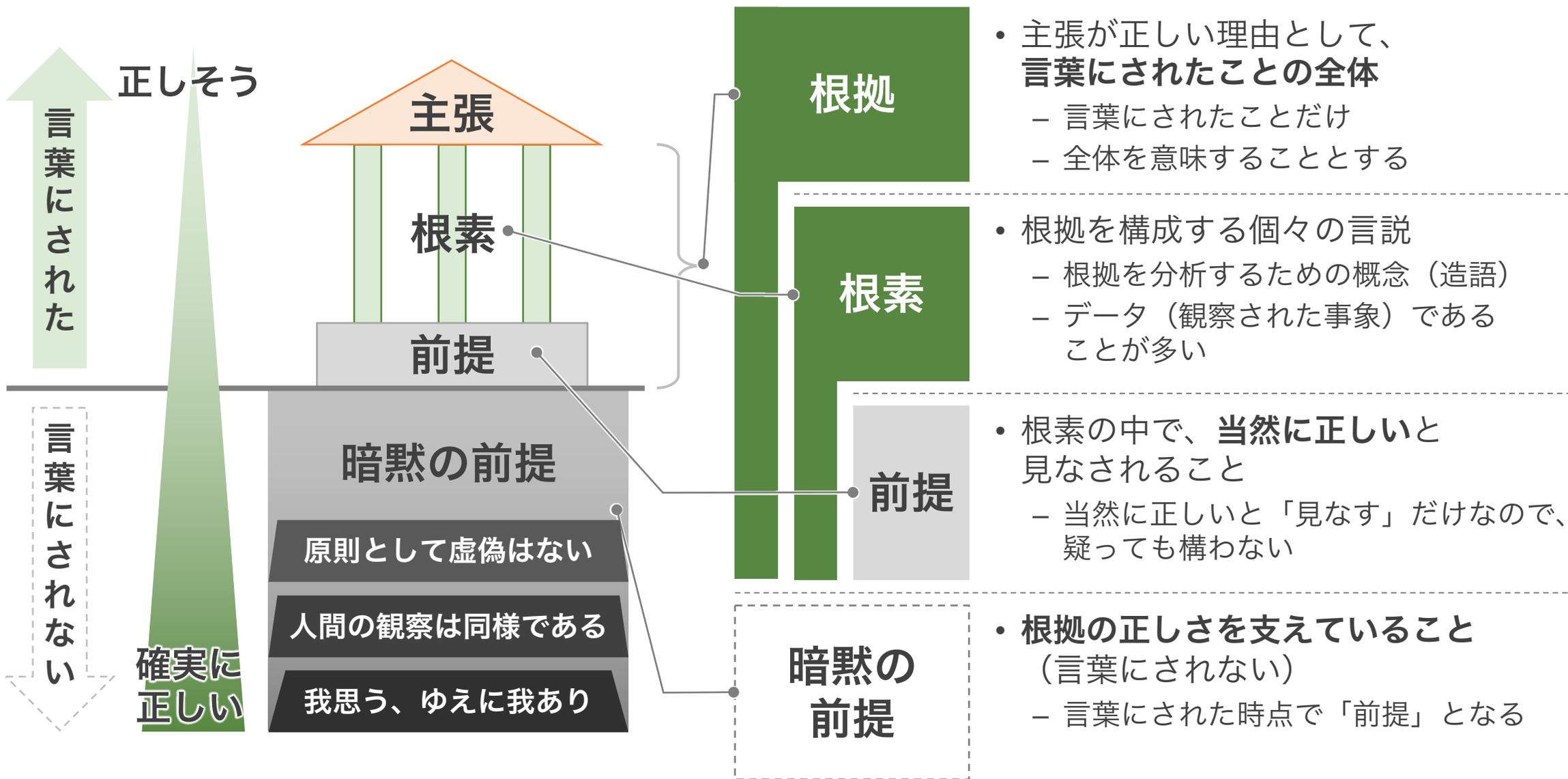


## 非効率コミュニティ



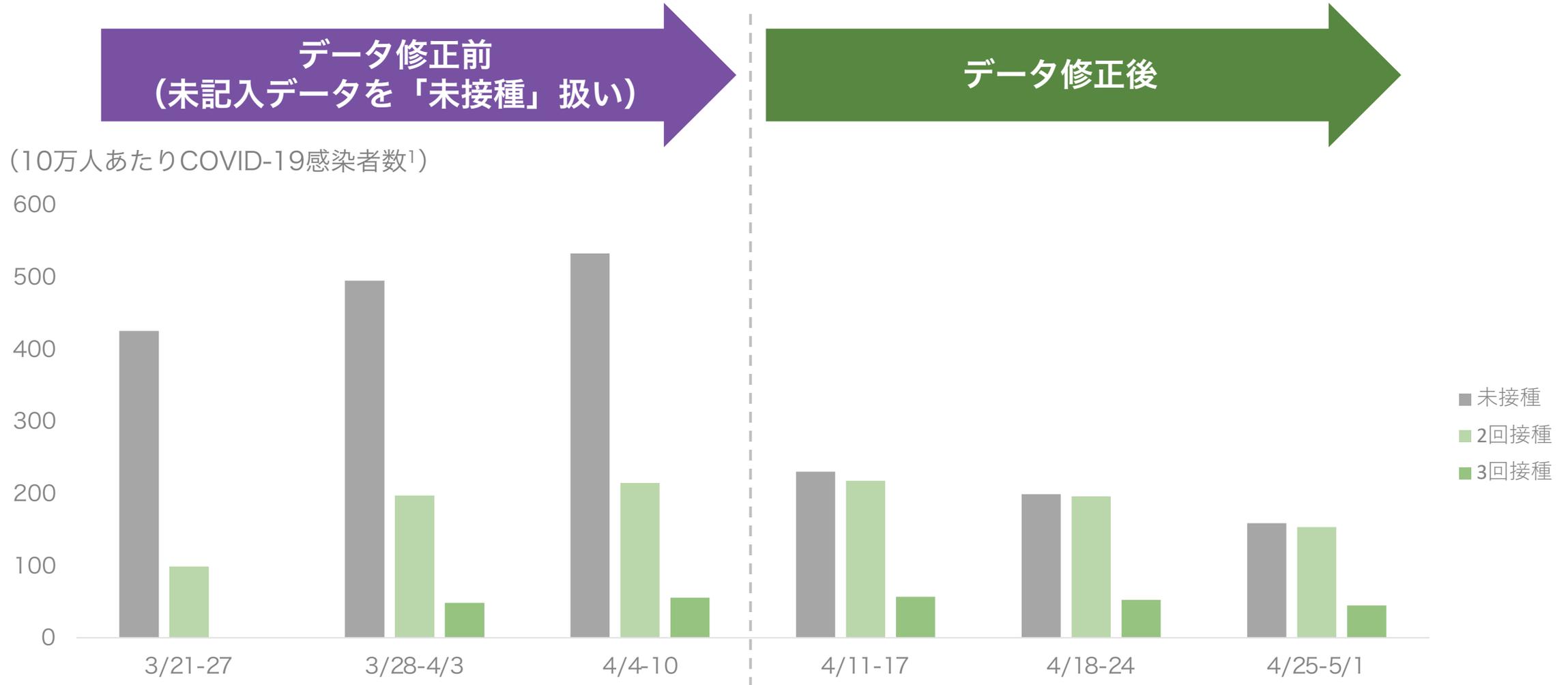
|      |   |   |   |  |   |   |
|------|---|---|---|--|---|---|
| 疑う対象 | 正しさ   | <ul style="list-style-type: none"><li>• 疑わない<br/>– 議論そのものをしない</li></ul> | ↔ | <ul style="list-style-type: none"><li>• 疑う<br/>– 無条件に誰かの正しさを認めず、議論する</li></ul> |   |   |
|      | 嘘   | <ul style="list-style-type: none"><li>• 疑わない</li></ul>                  |   | <ul style="list-style-type: none"><li>• 原則として疑わない<br/>– 疑うのは有事のみ</li></ul>     | ↔ | <ul style="list-style-type: none"><li>• 疑う<br/>– 嘘を当然と見なす</li></ul>                     |
| 例    | <ul style="list-style-type: none"><li>• 宗教団体</li><li>• 日本的なコミュニティ<br/>– 上意下達の組織</li></ul> |   |   | <ul style="list-style-type: none"><li>• 民間企業</li><li>• 大学・研究機関</li></ul>       |   | <ul style="list-style-type: none"><li>• ネットのコミュニティ<br/>– 匿名掲示板<br/>– オープンなSNS</li></ul> |

# 根拠の構造：無虚偽の前提



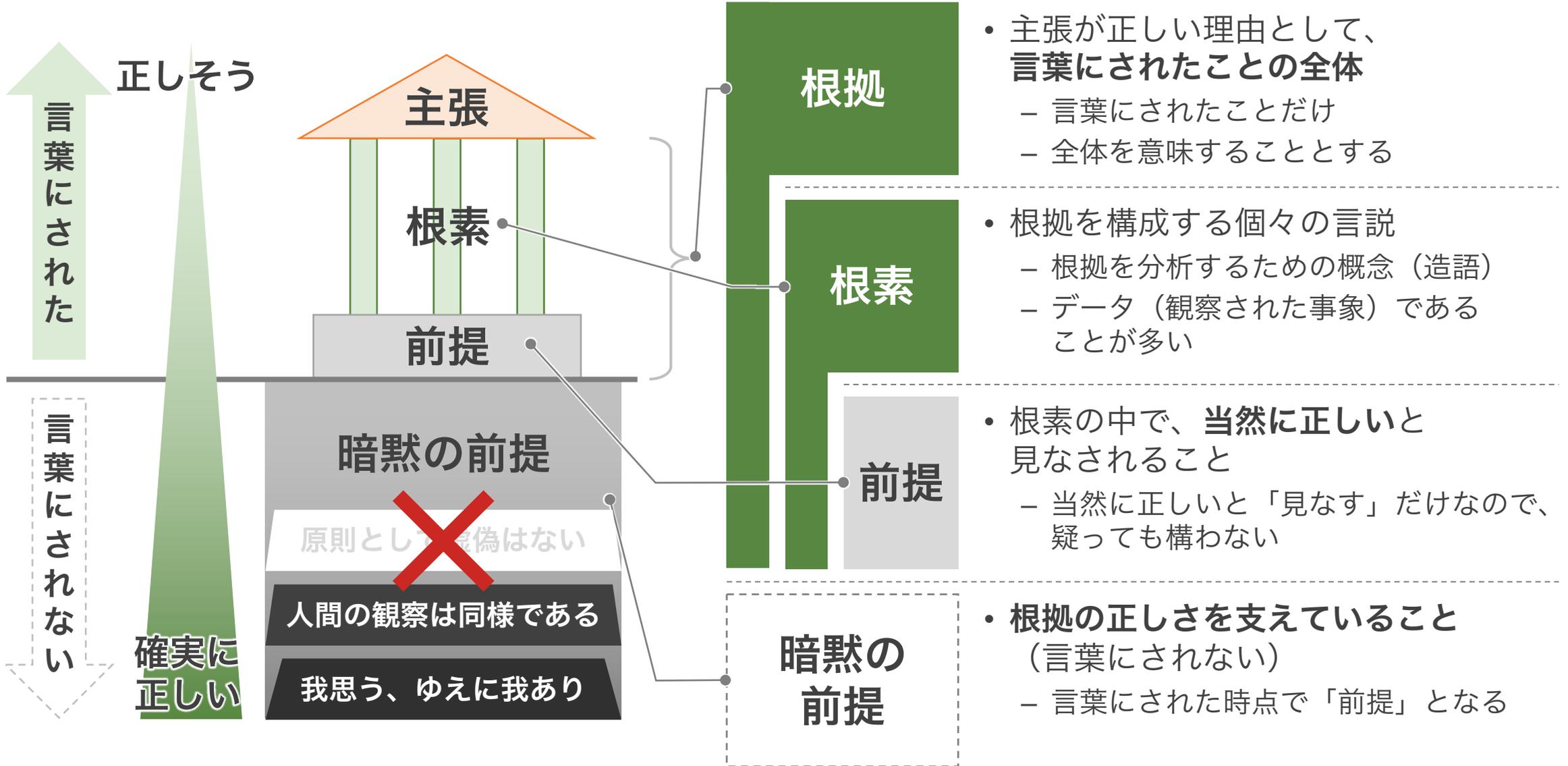
# 厚労省によるワクチンデータ虚偽事件

## ワクチン接種歴別 COVID-19新規陽性者数の推移（2022年）



Source: 『新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード』第79回-83回（厚生労働省）をもとに作成  
1. 12歳以上の新規陽性者

# 根拠の構造



## 合理性における嘘

- 例：研究でのデータ捏造
- **どんな理由があっても正当化できない**
  - このタイプの嘘は合理性を破壊する行為

## プライベートな嘘

- 例：托卵や浮気（を伝えないこと）
- **ケースバイケースとしか言えない**
  - 当事者の問題であるという整理にするしかない

## 方便になる嘘

- 例：お世辞、空元気など
  - ものごとを円滑に進めるための嘘などが該当する
- **その嘘で不利益を被る人がいないと確信できるなら、ついてもよさそう**
  - 現実的に、このタイプの嘘をまったくつかずに生活するのは不可能では？

する

しない

他者は嘘に基づいて意思決定をするか

# 誠実な伝え方：自分のロジックをどう伝えるか

## 考えること

## 誠実な伝え方（広義の嘘がない伝え方）

### 内容の 取捨選択

- 考えた・調べた情報のうち、何をどこまで伝えるか？
  - 情報が多すぎると分かりにくい

・ 誠実な範囲で分かりやすくする  
・ 大原則…判断を受け手に委ねる

- すべての情報を受け手からアクセス可能にする
  - すべてを伝えるかは状況による
  - ノイズは除去する

### 構成

- どのような順序で伝えるか？
  - 情報の並べ方のこと

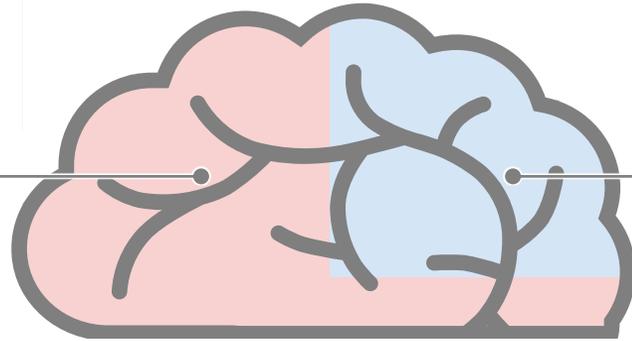
- 嘘とは無関係
  - どのような構成であれ、受け手に伝わる情報は変わらない

### (狭義の) 伝え方

- ある内容を、どう伝えるか？
  - どのメディアで伝えるか？
  - どのように表現するか？

- 強弱をつけすぎない
  - こちらで強弱をつけすぎるのは、情報を取捨選択しているのと同じ
  - シンプルなデザインに留める

# 野性システムと理性システム



## 野性システム（システム1）

## 理性システム（システム2）

### 定義

- **いきなり結論が出る意思決定システム**
  - いわゆる「本能」

- **じっくり結論を出す意思決定システム**
  - いわゆる「理性」

### 意思決定の仕方

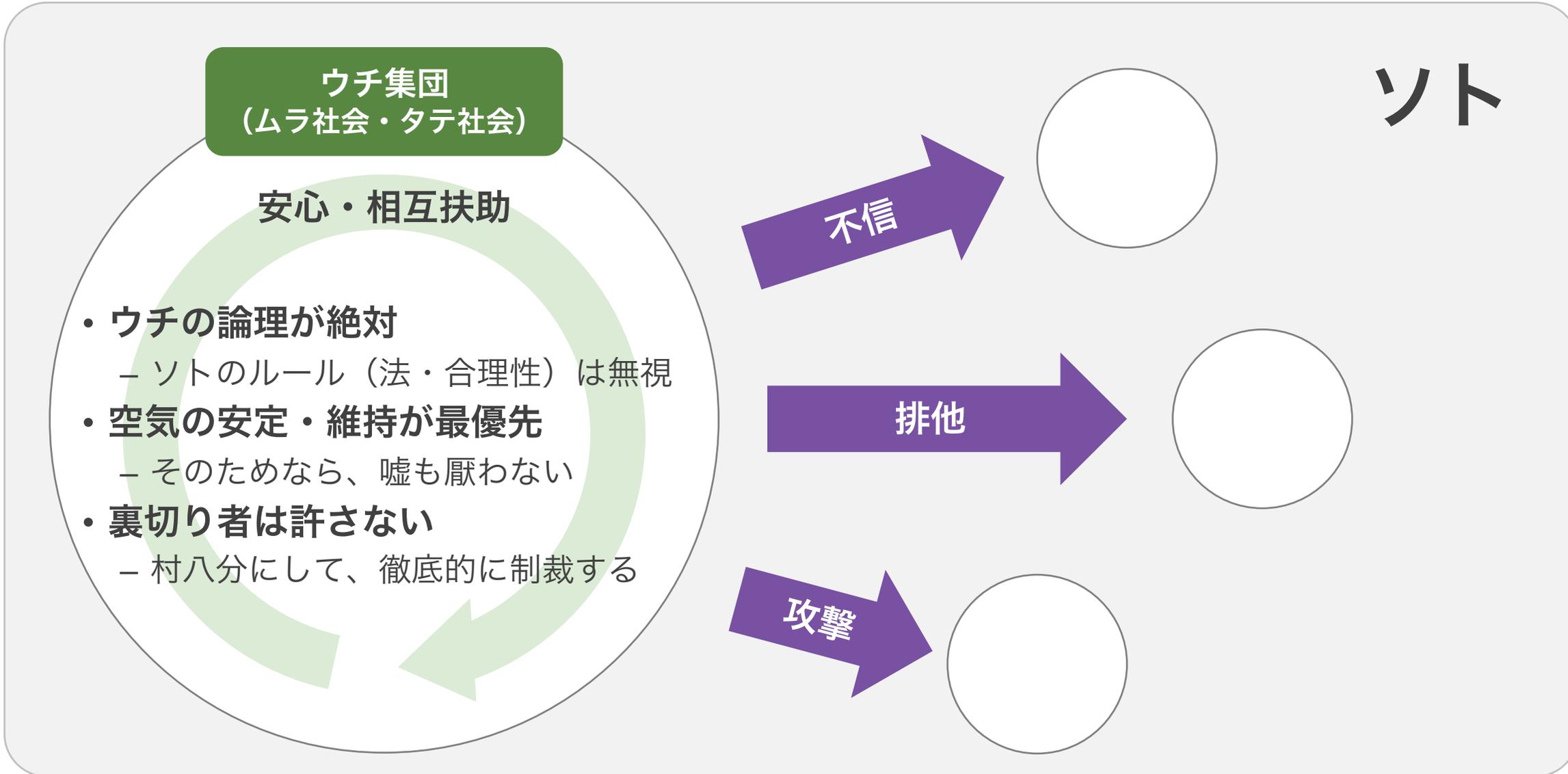
- **速く・コストがかからない**
  - 論点が意識される前に結論が出る
  - 理由はないか、あるとしても後付け

- **遅く・コストがかかる**
  - 論点を意識するところから始まる
  - 理由から結論を導く

### 状態

- **常にオン（自動操縦）**
  - オフにはできない

- **通常はオフ（マニュアル操縦）**
  - 使おうとしないとオンにならない



# ウチ集団の崩壊後に残るもの

ウチ集団後の  
個人

- 私の論理が絶対
  - ソトのルール（法・合理性）は無視
- 私が最優先
  - そのためなら、嘘も厭わない

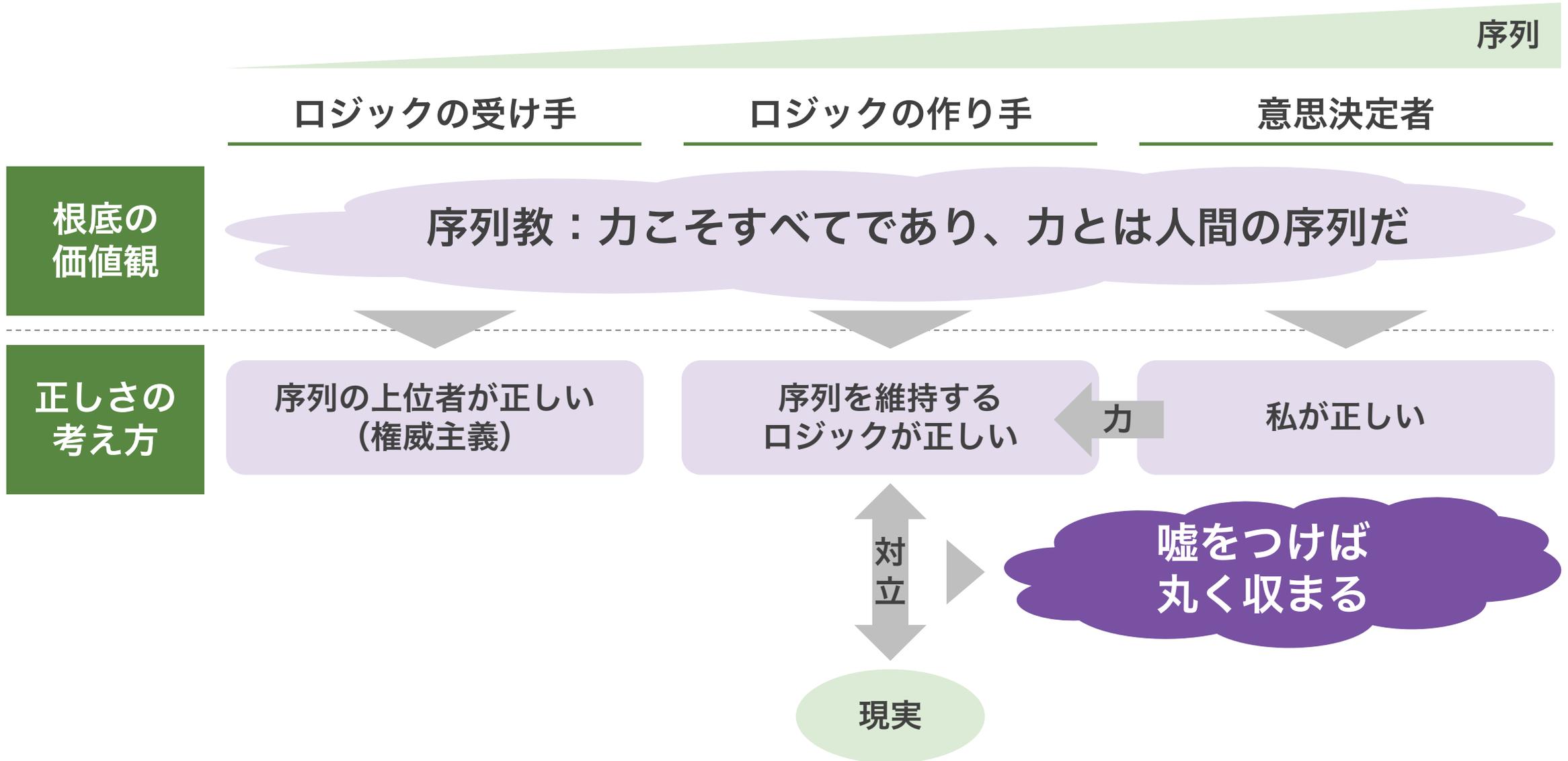
不信

排他

攻撃

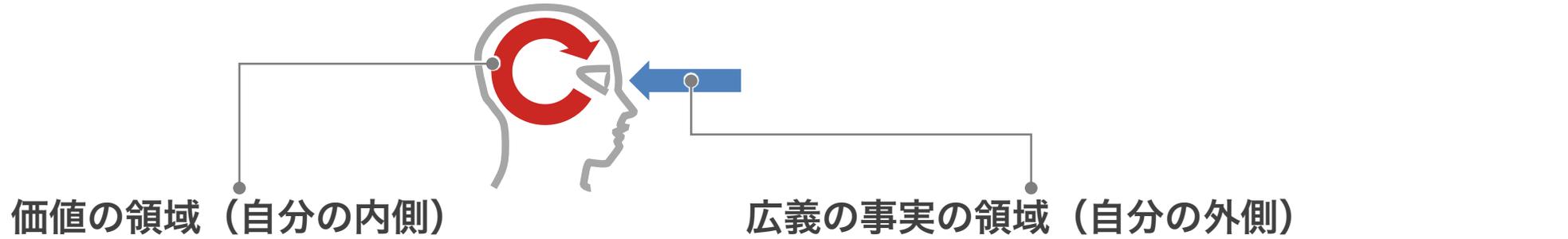
ソト

# 序列教と虚偽



おわりに

# 客観性の誤型



観察できる (狭義の事実)

観察できない (理など)

正しさが  
万全である

ない

- 万人にとって正しい価値は存在しない

データ

- 実際に観察された事実

定説 (知識)

- 万人が正しいと見なす原理・法則

正しさが  
万全ではない

価値  
① 価値論法

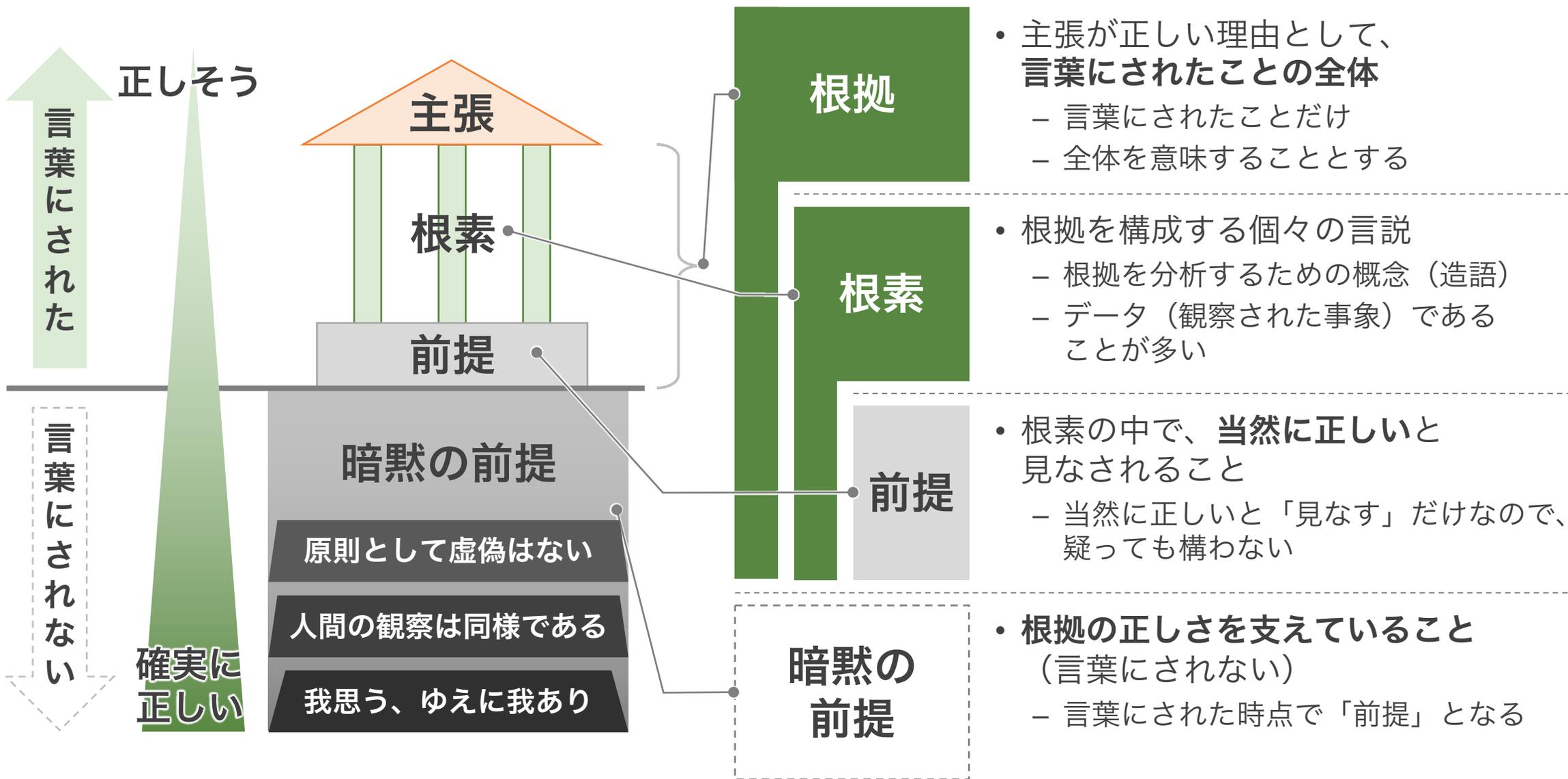
- 感情・希望・信念など
- 正しさは人それぞれ

推測と虚偽  
② 推測論法

- 事実に関する、万人には正しくない言説

③ 虚偽

# 根拠の構造：無虚偽の前提





Liffel